

授業評価 2015 (前期) T1U: 工学部情報画像学科

syll mkjhytex.pl Ver 2.79(2015-09-11) by Yas

2015 年度前期 工学部情報画像学科 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1U005001	情報数学 I	2 年前期金曜 4 限	岸本 渡	T1U 1
T1U006001	計算機システム入門	2 年前期木曜 1 限	難波 一輝	T1U 2
T1U008001	フーリエ変換と画像	2 年前期火曜 2 限	堀内 隆彦	T1U 3
T1U008002	フーリエ変換と画像	2 年前期火曜 3 限	堀内 隆彦	T1U 4
T1U012001	電磁波と光	2 年前期月曜 4 限	久世 宏明 <sup>他</sup>	T1U 5
T1U033001	ヒューマンインタフェース	3 年前期火曜 2 限	黒岩 真吾	T1U 6
T1U034001	コンピュータグラフィックス	3 年前期木曜 4 限	津村 徳道	T1U 7
T1U035001	デジタル信号処理	3 年前期月曜 2 限	川本 一彦	T1U 8
T1U060001	工業システム概論	4 年前期月曜 4 限	(浅野 一哉)	T1U 9

授業科目名	: 情報数学 I
担当教員	: 岸本 渡
年次・開講時限	: 2 年前期金曜 4 限
授業コード	: T1U005001
授業アンケート	: 回答者数 63 人 / 受講者数 84 人 (回収率 75%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q6. Q5 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 39 件)

板書の文字が読みにくいとの評価が多数寄せられており、改善しなければならないと感じているが、授業時間の制約から、ゆっくりと丁寧に書いている時間がとれないため、どのようにして改善して行くべきか苦慮している。今年度から授業の簡単なまとめを moodle システムから配布するようにして、板書を補うようにしようと試みたが、余り役立っていないようである。良い方法を検討していきたい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

授業の最後にやる小テストへの取り組み方の良くない学生は、それで良いのか自身で考えてみて欲しいと思う。試験の内容自体は授業で説明した内容から出されていると考えている。工学部の授業だから証明問題が必要ないということではなく、個々の数学的事項を十分に理解するためには、定理の証明を考えることも必要となってくる。定理などの結果のみを知っているだけでは、応用などをする際に大きな間違いをしてしまうこともあるように思われるので、こういった問題は必要であると考えている。

### 3. その他のコメントや連絡事項

情報系の基礎の数学を取り扱っているため、退屈してしまう学生が出てくるのも仕方ないとは思いう。学生の興味を持たせるように授業の進め方、内容に工夫が必要ではあるが、学生自身で授業の必要性や他の講義との関連を考えてみることもして欲しいと思う。

作成(者): 岸本 渡

授業科目名	: 計算機システム入門
担当教員	: 難波 一輝
年次・開講時限	: 2 年前期木曜 1 限
授業コード	: T1U006001
授業アンケート	: 回答者数 66 人 / 受講者数 87 人 (回収率 76%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q3. 教員の声はよく聞こえましたか? (回答 66 件)

不満を感じた学生が多い。特に、話す速さが速い、話し声を聞き取りにくい、と感じている学生が多い。話す内容がまとまっていない、という意見もある。これらは私自身も心当たりがあり、改善の必要があると感じている。

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 65 件)

不満を感じた学生が多い。特に、板書、スライドの文字や図が見にくい、と感じている学生が多く、改善の必要がある。スライドがわかりにくかった、重要なことが書いていない、スライドの情報が少ない、などの意見もある。教科書が主で、スライドは補助という考えで講義を行ったが、スライドが主となる講義になっていたのであろう。改善の必要がある。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

今回、新たにこの講義を担当した。いろいろ試行錯誤しながらやったが、途中で内容を変えた悪影響が多く指摘されるアンケート結果であったと思う。来年度には改善した講義を行うつもりであるので、今年度講義内容を理解できなかった者は期待して欲しい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

この講義の内容は計算工学の基礎的な内容であるが、単なる基礎では無く、現実社会とのつながりも多い。そのことをなるべく知らせるような講義を心がけた。来年度はこの点についてもさらに改善して実施したい。

作成(者): 難波 一輝

授業科目名	: フーリエ変換と画像
担当教員	: 堀内 隆彦
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1U008001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 62 人 (回収率 61%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 36 件)

例年学科間では情報画像学科の学生による評価が 0.6~0.8 ポイント高く、これは成績とも連動している。今年度は、アンケートの集計結果が情報画像学科のみの受講生であったため、この点を確認できなかった。一般に、画像科学科は情報画像学科と比較して講義の進度が速いと感じており、全体の評価や成績と相関がある。両学科の学生が同時に受講しており、受講環境は同じであるため、学科の違いによる学生の資質や能力の違いによるものと推察される。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

自由記述には、毎回の演習が理解の手助けになっているという評価が多く見られ、今後も継続していきたい。また、資料の配布をして欲しいという要望があり、重要なポイントなどをまとめて配布するようにした。板書と有効的な併用をさらに検討していきたい。しかし、教科書を指定してほしいという意見もあり、部分的に利用することも検討していきたい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

この科目は、様々な工学分野で必要とされるフーリエ解析に関して、画像を題材にしながら理解を深めることを目的とした科目であり、情報画像学科の必修科目、画像科学科の選択必修科目である。画像科学科の学生も 90%以上が受講しているため、目が行き届く範囲で講義をするために 2 クラス開講にしている。画像工学の立場から、フーリエ変換の理論と応用を丁寧に記述した教科書がないため、講義ではテキストを指定していない。授業では板書によって、数式の展開を一つひとつ丁寧に追いつきながら進めることによって、講義が終わるときには、自分のノートがテキストとなるように心がけた。また、印刷された教科書や資料をただ眺めるだけではなく、自らがノートを自発的に取りながら内容を追うことによって、より理解が深まることを狙っている。本科目は、数学の授業という位置づけではないため、単に数式上で理論を学ぶのではなく、数式と概念が結びつくことを重視した。毎回の講義の最後では、その週に学んだ内容に対して演習を行い、その結果に基づいて、翌週補足説明を行った。これによって、学生の理解が不十分な点を把握でき、その後の授業の組み立てに活かすことができる。

作成(者): 堀内隆彦

授業科目名	: フーリエ変換と画像
担当教員	: 堀内 隆彦
年次・開講時限	: 2 年前期火曜 3 限
授業コード	: T1U008002
授業アンケート	: 回答者数 33 人 / 受講者数 45 人 (回収率 73%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 32 件)

例年学科間では情報画像学科の学生による評価が 0.6~0.8 ポイント高く、これは成績とも連動している。今年度は、アンケートの集計結果が情報画像学科のみの受講生であったため、この点を確認できなかった。一般に、画像科学科は情報画像学科と比較して講義の進度が速いと感じており、全体の評価や成績と相関がある。両学科の学生が同時に受講しており、受講環境は同じであるため、学科の違いによる学生の資質や能力の違いによるものと推察される。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

自由記述には、毎回の演習が理解の手助けになっているという評価が多く見られ、今後も継続していきたい。また、資料の配布をして欲しいという要望があり、重要なポイントなどをまとめて配布するようにした。板書と有効的な併用をさらに検討していきたい。しかし、教科書を指定してほしいという意見もあり、部分的に利用することも検討していきたい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

この科目は、様々な工学分野で必要とされるフーリエ解析に関して、画像を題材にしながら理解を深めることを目的とした科目であり、情報画像学科の必修科目、画像科学科の選択必修科目である。画像科学科の学生も 90 %以上が受講しているため、目が行き届く範囲で講義をするために 2 クラス開講にしている。画像工学の立場から、フーリエ変換の理論と応用を丁寧に記述した教科書がないため、講義ではテキストを指定していない。授業では板書によって、数式の展開を一つひとつ丁寧に追いながら進めることによって、講義が終わるときには、自分のノートがテキストとなるように心がけた。また、印刷された教科書や資料をただ眺めるだけではなく、自らがノートを自発的に取りながら内容を追うことによって、より理解が深まることを狙っている。本科目は、数学の授業という位置づけではないため、単に数式上で理論を学ぶのではなく、数式と概念が結びつくことを重視した。毎回の講義の最後では、その週に学んだ内容に対して演習を行い、その結果に基づいて、翌週補足説明を行った。これによって、学生の理解が不十分な点を把握でき、その後の授業の組み立てに活かすことができる。

作成(者): 堀内隆彦

授業科目名	: 電磁波と光
担当教員	: 久世 宏明, 入江 仁士
年次・開講時限	: 2 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1U012001
授業アンケート	: 回答者数 68 人 / 受講者数 94 人 (回収率 72%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 68 件)

○ オリジナルの書き込み式テキストを準備し、千葉大生協で印刷・販売した。市販の教科書に比べると授業計画に密接に沿った内容であり、大量の板書をノートに書き写す必要がなくなることで予習および授業時の説明への集中に役立ったのではないかと考えられる。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。 (回答 10 件)

○ 毎回、短時間でできる演習を行い、A5 の用紙に解答を書いて提出してもらった。演習を通じて確実な理解を得ること、理解度を見るのに役立ったと考えられる。

○ 意欲のある学生には少し難易度の高い「特別レポート」を書いてもらい、評価に活用した。しっかりした本を読むことを奨励したため、より深い理解、興味の喚起にも役立ったのではないかと考えられる。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

○ 授業で説明を聞くだけでなく、自分の頭と手を使って問題を解く努力は、本質的な理解のために欠かせない。そのような習慣をつけるためにも授業を活用してもらえればと思います。

○ 理科系の学生にとって「良いレポート」とは何か、を考える一つの機会としてもらえればと思います。

### 3. その他のコメントや連絡事項

作成(者): 久世宏明

授業科目名	: ヒューマンインタフェース
担当教員	: 黒岩 眞吾
年次・開講時限	: 3 年前期火曜 2 限
授業コード	: T1U033001
授業アンケート	: 回答者数 8 人 / 受講者数 14 人 (回収率 57%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q16. 全体を通して、この授業に満足しましたか? (回答 8 件)

[平均 4.62] 座学の講義に加え、学生自身がアイデアをだしプレゼンを行い議論をするという授業形式が好評のようである。

Q29. この授業で良かった点について記入してください。 (回答 2 件)

「考え方が広がった」: 人が失敗する (エラーが起きる) のは、システムや組織に原因があり、デザインでそれらを防ぐというヒューマンインタフェースの考え方を興味深いと考える学生が多いようである。

「プレゼン技法が学べた」: 相手のわかり易く、かつ、印象に残るプレゼンはヒューマンインタフェースの基本である。

Q30. この授業で改善すべき点について記入してください。 (回答 2 件)

「プレゼンテーションと他の科目の期末テストが重なるのがつらかった」「テストの問題量が多かった」前者については、クォータ制に合わせて改善を検討中です。また、後者については問題数を減らす予定です。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

今年度は富士通の特許を活用したアイデアというテーマも設け (希望者のみ) 一部のプレゼンの時に地元のシニアの方や企業の方にも聴講してもらいました。来年度も希望があれば実施したいと考えています。授業内での 2 回目のプレゼンということもあり、かなり高い評価をいただきました (ただし、外部の方の意見は成績には反映されません)。

### 3. その他のコメントや連絡事項

工学は、技術を通じて人々の生活を豊かにし幸福をもたらすものでなくてはなりません。どんなにスゴイ技術も誰も使わないのであれば、無いのと同じです。この授業を通じてエンジニアとして社会に貢献できる技術開発を目指す人になって欲しく思っています。

作成 (者): 黒岩眞吾

授業科目名	: コンピュータグラフィックス
担当教員	: 津村 徳道
年次・開講時限	: 3 年前期木曜 4 限
授業コード	: T1U034001
授業アンケート	: 回答者数 43 人 / 受講者数 86 人 (回収率 50%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q5. 板書, OHP, スライドなどは, 見やすかったですか? (回答 43 件)

字が汚いとのコメントがありました, 以後気を付けます.

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 43 件)

ほとんど予習にかけていなことが分かった. 来季は検討します.

Q17. TA (ティーチングアシスタント) がいた場合, この演習・実験・実習科目の理解に役立つように人数が確保されていましたか? (回答 24 件)

スタッフや TA があまり, OpenGL 演習時に密に指導していない件のご指摘をいただきました. 100 人を超える演習であるため, 早く進んだ学生さんが, 遅れている学生さんをサポートするという体制でいきたいと思えます. 人に教えることは大変勉強になります.

2. 授業アンケート全体に対するコメント

3. その他のコメントや連絡事項

作成 (者): 津村徳道

授業科目名	: デジタル信号処理
担当教員	: 川本 一彦
年次・開講時限	: 3 年前期月曜 2 限
授業コード	: T1U035001
授業アンケート	: 回答者数 32 人 / 受講者数 65 人 (回収率 49%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 32 件)

昨年度から教科書を指定するようになり評価が高かったため、本年度も同様に指定した。さらに、教科書の記述が不十分と考えられる事柄については、自作補助教材を作成し配布した。来年度も自作補助教材を充実させながら進めていきたい。

Q10. 授業では宿題、レポート等が理解を助けるのに役立ちましたか? (回答 32 件)

本年度から授業中に小演習を課すようにし、授業の理解を助けるように努めたが、評価は例年とそれほど差がなかった。自由コメントにあるように、演習の時間が十分ではなかったという声をきくので、来年度はこの点を改善していきたい。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

上述したが、本年度から授業中に小演習を課すようにし、授業の理解を助け、学習到達度が上がるように配慮している。小演習の評点の統計値(平均など)は翌週にフィードバックしており、クラス全体の理解度と自身の理解度の差を把握したうえで、学習に努めてほしい。小演習の基本レベルで、よく予習しておけば解ける問題も多かったと考えているため、十分な予習をしたうえでの受講を望む。

### 3. その他のコメントや連絡事項

質問は遠慮なく積極的にするようにしてください。

作成(者): 川本一彦

授業科目名	: 工業システム概論
担当教員	: 浅野 一哉
年次・開講時限	: 4 年前期月曜 4 限
授業コード	: T1U060001
授業アンケート	: 回答者数 4 人 / 受講者数 15 人 (回収率 27%)

### 1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q2. 教材は授業の理解に役立ちましたか? (回答 4 件)

今年度から本授業を担当したため、教材にない部分や強調したい部分を板書で補う形とした。今年度も、ほぼ教材に関してはわかりやすいという評価だが、1年目の授業を行った結果を受けて、改良していきたい。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 4 件)

進度に関し、「どちらともいえない」という回答があるが、速すぎるのか、遅すぎるのかわからない。授業アンケートの項目を追加して、それがわかるようにしていただけませんか?

Q14. あなたはこの授業で質問をしましたか? (回答 4 件)

質問は皆無であったと言ってよい。来年度は、こちらから質問を投げかけていこうと思う。

### 2. 授業アンケート全体に対するコメント

本授業では、

- 1 情報システム技術ではなく、工業システムを解析、設計するための技術に重点を置く
- 2 広範な技術を扱うため、細部には立ち入らない
- 3 具体的な事例、極力自分自身が担当、関与した研究開発の例を理論や手法と合わせて紹介する

- 4 理論や手法についても産業界のユーザの立場で紹介する

ことにより、

机上の学問ではなく、理論や手法が産業界で実際にどのように活用されるのかを知ってもらうことを狙いとした。アンケート結果から、その考え方に賛同してもらえたと考えるが、さらにわかりやすい授業を心掛けていきたい。

### 3. その他のコメントや連絡事項

伝えたいことは山ほどあるので、若干詰め込みすぎになった感がある。一方通行にならないよう、参加型の授業も取り入れるなど、改善を図っていきたい。

作成(者): 浅野一哉